

第1回医ケアワーキング協議報告資料

1 開催日時・場所

令和4年10月26日（水）13時～15時・県立広島病院会議室

2 第1回ワーキング部会参加者

福原、村尾、平田、梶本、依田、末光、金子（進行）、田中（進行補助）、八田・鷹田（オブザーバー）、岡野・浜名（オブザーバー）

3 支援項目の優先順位案について

ワーキング開催前（事前照会結果）

（優先順位案の設定方法）

12名の委員（A～L）からの回答を基に、第1位とした個数に応じて、上位から順に並べる。（第2位以下同じ）

案	検討項目	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	平均
第1位	医療サービスの充実	3	2	-	4	2	1	7	1	1	7	1	1	2.73
第2位	避難所生活への不安	8	1	4	1	1	2	8	★	9	11	-	-	5
第3位	通学支援	1	7	2	6	-	-	1	4	3	3	3	4	3.4
第4位	非常用電源補助拡充	10	4	-	3	-	-	9	★	2	1	5	-	4.86
	看護師等の配置	6	5	1	5	-	-	3	4	3	4	-	5	4
第6位	医療ケア物品の配送等	9	3	-	2	-	-	12	2	8	12	-	-	6.86
	母子通園等の保護者の負担軽減	4	8	-	8	-	-	2	対象外	11	2	-	-	5
	学校生活での支援の充実	5	8	3	7	-	-	4	4	7	10	2	2	5.2
第9位	通園支援	2	6	-	9	6	-	5	7	3	5	3	6	5.2
第10位	福祉サービス等の充実	7	10	-	10	3	-	6	7	3	8	-	-	6.75
	福祉用具等の経済的負担軽減	11	12	6	12	5	-	11	3	10	6	-	3	7.9
第12位	公設デイの在り方	12	11	5	11	3	-	10	対象外	対象外	9	6	-	8.38

※1：「★」マークは、災害に関わる施策は順位を付すまでもなく、最重要という意味であるという意見があったもの。

※2：「平均」は、優先順位の数字を平均化したもので、小さいほど優先順位が高いことを意味する参考値。

ワーキング協議後

（ワーキング協議における優先順位案の決定方法）

本資料左の表（ワーキング開催前（事前照会結果））を基に、各検討項目について意見交換の上、決定した。

案	検討項目	協議での主な意見
第1位	災害時の避難の在り方（避難所・自宅での生活支援）	・災害時、自宅・避難所のどちらで避難した場合でも、個別避難計画に基づき、生命の危機に直結する電源確保等、安心して生活できるための支援策検討は、最重要
	・非常用電源補助拡充	・自宅等で安心して過ごせるための支援策の検討（災害時の避難の在り方の中で検討）
	・医療ケア物品の配送等	・自宅等で安心して過ごせるための支援策の検討（災害時の避難の在り方の中で検討）
第2位	医療サービスの充実	・将来に向けた漠然と不安要素が大きいため、生命に関わる災害時の避難の在り方検討より優先度は低い
第3位	通学支援	・保護者の付き添いなしでの通学は、義務教育の観点からも非常に重要であることから、まずは数日だけでも付き添いなしで通学できる広島モデルを導入し実施していくべきである
第4位	看護師等の配置	・眠っている看護師人材の掘り起こしをどのように行うか ・病院（医師）・学校・福祉・家族との連携、協力関係の構築が重要
第5位	学校生活での支援の充実	・第3位、第4位に関する支援を充実させていく中で、可能なものから対応策を検討
第6位	母子通園等の保護者の負担軽減	・母子通園の意義は、一定程度認めつつも、家庭の実情に沿った在り方を検討していくことが必要
第7位	通園支援	・看護師の確保策について、多角的な視点で取り組む必要がある ・保護者の離職防止の観点からも支援策の検討が重要
第8位	福祉サービス等の充実	・看護師だけに頼るのではなく、介護職員の研修等により人材を育成するなどし、事業所の受け入れ体制の整備が必要
第9位	福祉用具等の経済的負担軽減	・第8位までの支援策が実現すれば、課題解決が進むと考えられるため、優先度は低い
第10位	公設デイの在り方	・市と指定管理者において、既に公設デイの在り方検討を進めているため、ワーキングでの検討項目から削除の可能性もあり



4 医ケアワーキングの今後のスケジュール

検討項目	令和4年度	令和5年度				令和6年度			
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
災害時の避難の在り方	WGでの検討	関係課で調整・検討	● 予算要求			事業化（支援の実施）			
医療サービスの充実	WGでの検討	関係課で検討	● 予算要求			事業化（支援の実施）			
通学支援		WGでの検討	● 予算要求			事業化（支援の実施）			
看護師等の配置			WGでの検討	● 予算要求		関係課で調整・検討		● 予算要求	
学校生活での支援の充実				WGでの検討	● 予算要求	関係課で調整・検討		● 予算要求	
母子通園等の保護者の負担軽減					WGでの検討	関係課で検討		● 予算要求	
通園支援						WGでの検討			
福祉サービス等の充実								WGでの検討	
福祉用具等の経済的負担軽減									WGでの検討

（医療サービスの充実に関するその他意見）

【病院に対して】

○成人以降は、小児科病棟でなくても成人病棟として（医療的ケアの有無に関わらず）障害者を理解し、配慮した入院ができる体制（病棟のルール、看護師や医師の理解など）を確立し、家族の安心につなげる。

【医師会に対して】

○小児科医と内科医の連携促進を図るとともに、15歳から20歳を移行期として、情報交換を深める仕組みづくりをお願いしたい。（その際、医師会の窓口である医療政策課にパイプ役になってほしい）

【行政に対して】

○最終手段として、小児の訪問診療を受けてくれたらいくらか補助するような受入促進施策の検討もお願いしたい。